

中長期計画に対する自己評価（1ページ以内）

全体評価	S：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。 A：当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。 B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取り組みがあり、目標の達成に継続した努力が求められる。 C：当初の計画について半数以上の取り組みについて未達であり、取り組みや目標に関して一定の見直しが必要である。 D：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。
------	---

評価理由

世田谷プラットフォームにおいては、中長期計画（平成30年度～令和5年度※令和5年度は1年間延長期間）に基づき各取り組みが進められている。運営体制については、意思決定機関としてプラットフォームを形成する全大学、地方自治体及び産業界等からなる協議会、形成大学間での協議の場として協議部会が、それぞれ定期的に年4回開催されており、各取り組みに対応する各部会、各ビジョンプロジェクト、共同事務局等が設置され、各組織の役割が整備されている。また、評価する仕組みとして評価時期を定め、進捗確認を含めた評価体制を構築し、評価結果を次年度計画へ反映する体制なども整備されている。5年連続して私立大学等改革総合支援事業（タイプ3）に採択され、一定の継続的成果を得られている。しかしながら、計画の検討に留まり、十分に機能していない部会があるなどの課題が残っている。また、新型コロナウイルス感染症の収束が見込めず、事業の遅延があることから、当初の5年間の第1期計画期間とした中長期計画を1年間延長し、次期計画は第1期中長期計画の評価結果を検証しながら策定することとした。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初の計画が取り組みず、目標達成ができなかった活動もあったが、各大学独自の活動と場所や時間に制限されないオンラインを有効活用した取り組みは活発に行われ、感染対策を講じ対面での取り組みも徐々に行うことができた。各大学独自では、防災教育や学生ボランティアの派遣に積極的に取り組みを進め、昨年度に引き続き社会人向け「ビジネスキャリアデザイン講座Ⅱ」や e-Learning 方式を含む「公開講座提供件数」なども、数値目標を大きく上回り達成することができた。また、世田谷区立教育総合センターにおける STEAM 教育講座には、6大学が特徴のある講座を出展し、大変盛況であった。令和5年度も継続して出展できるよう企画の検討を進めており、今後の世田谷 PF のさらなる活躍が期待される。

以上に記載したとおり、全体として、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、目標未達の計画が多かったものの、各大学独自の取り組みとオンラインの活用に加え、対面での取り組みにより、大学間連携など様々な取り組みを進めたため、評価は B とした。

評価に関する備考（考慮すべき事項）**■新型コロナウイルス感染症の影響**

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き各大学の判断のもとで活動し様々な対応が求められた。各イベントについては、オンラインも活用して実施され、アフターコロナを見据えた ICT を用いたオンライン授業の効果・課題をテーマに「世田谷 PF 主催合同 FD シンポジウム」の開催、社会人向け「ビジネスキャリアデザイン講座Ⅱ」をオンデマンド配信で行うなど、幅広い層への参加の機会を提供することができた。また、実践に近い体験やグループワークによる演習等を行うことにより効果が期待される、「地震対応ワークショップ（図上訓練）」、「保護者のための大学説明会」、「世田谷 PF 合同 SD 研究会」等は感染対策を講じ、対面形式で開催し交流の場を提供することもできた。

■事務局体制の強化

令和3年度に引き続き「大学事務の共同実施」の一環として、加盟6大学が必要とする「防災備蓄品」の共同購入を行った。また、世田谷 PF 代表口座の開設に伴い会計業務引継ぎが効率的に行われ、小口現金の運用を開始し、事務局体制の強化がされた。

■区内産業界との連携

世田谷 PF は、東急株式会社、イツ・コミュニケーションズ株式会社、東急スポーツシステム株式会社、東京商工会議所および世田谷信用金庫の参画企業5社とそれぞれ包括連携の体制を構築している。

■地方自治体との連携

世田谷 PF は、世田谷区だけでなく、同区と交流のある地方自治体（北海道中川町、北海道洞爺湖町、山形県舟形町、群馬県川場村、神奈川県川崎市、長野県豊丘村、新潟県十日町市等）との連携を掲げている。令和4年度は、世田谷区主催の「自治体間連携フォーラム」において、世田谷 PF における自治体との連携取り組みの事例発表をし、連携の強化を進めた。

達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）							
課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標			実績	評価・備考
			上段数値：各大学が独自で実施している取組件数 下段数値：上記の内、世田谷PFとしての取組件数			以下、2022年度の実績及び評価	

ビジョンプロジェクト1（文化・芸術・教育） 担当：【国土館】、【東京都市】

1-1. 今後も人口増加・住民の多様化が予想される世田谷区において、幅広い年齢層や地域のニーズに合わせた教育の提供が求められているが、その機会が不足している	■ 大学の幅広い知財を地域住民に提供する機会を増やし、様々なニーズに合わせた教育を実施する	■ 高等教育の提供	■ 公開講座等提供件数（eラーニング含む）【件】						296件 (8)	B 世田谷区における様々な特色をもつ6大学で世田谷PFが形成されており、広範囲の学術分野を補った取り組みが可能である。2021年度よりも数値目標に近づき、コロナ禍以前に回復しつつあるが、数値目標を達成していない。			
			2018	2019	2020	2021	2022	2023					
			310件 (11)	315件 (12)	320件 (13)	330件 (14)	340件 (15)	340件 (15)					
			■ eラーニング（せたがやeカレッジ含む）による公開講座提供件数										
						2018	2019	2020	2021	2022	2023	59件	S 6大学と区教育委員会が共同で運営する「せたがやeカレッジ」によるe-Learning方式の講座提供を行い、数値目標を大きく上回り達成している。なお、既に計画の目標を超え顕著な成果があることから2023年度の数値目標を見直した。
						7件	8件	9件	10件	11件	30件		
1-2. 大学がもつ高度で専門的な教育資源を活用し、小中学校等における教育活動の充実をはかる必要があるが、その連携が不十分である	■ 大学がもつ高度で専門的な教育資源の活用による、小中学校等における教育活動の充実	■ 区内小中学校等への教育活動支援	■ 教育支援活動を実施した小中学校数						28校	C 2021年度は、コロナ禍以前の水準まで回復しつつあったが、2022年度はその活動数を下回り、数値目標を達成していない。なお、「過大な数値目標が設定されていることが想定される」との評価を受けたことから2023年度の数値目標を見直した。			
			2018	2019	2020	2021	2022	2023					
			60校	62校	64校	66校	68校	40校					
						■ 学生ボランティアによる区内小・中学校等への教育活動支援派遣者数（世田谷区「区立幼稚園、小・中						58名	B 世田谷区教育委員会事務局を

2022（令和4）年度 世田谷プラットフォーム評価報告書

			学校等への教育活動支援事業」と連携)							通じて派遣しているが、コロナ禍の影響により受入体制と派遣体制が整わず計画どおりの数値は達成していない。	
			2018	2019	2020	2021	2022	2023			
			75名	75名	75名	75名	75名	75名			
1-3. 乳幼児期から文化・芸術にふれることは、想像力と創造性を育み、多様な価値観を受け入れることが期待される一方で、それらは限られた環境の子どもにしか提供されていない	■ 文化・芸術・教育に関わる機会の提供及び乳幼児の情操教育への寄与	■ 乳幼児及び保護者への支援の推進	■ 乳幼児及び保護者への支援活動並びにその啓発活動の実施件数	2018	2019	2020	2021	2022	2023	13件(0)	A 各大学での活動が計画どおりに行われ数値目標を達成している。世田谷PFとしての取り組みが行なわれることにより、更なる成果が期待される。
				10件(10)	10件(2)	10件(3)	10件(4)	10件(6)	10件(2)		
1-4. 文化・芸術活動等は、障がい者が生きがいや社会参加に寄与するために必要であるが、その支援活動が不足している	■ 障がい者支援活動機会の充実	■ 障がい者支援の推進	■ 障がい者支援活動及びその啓発活動の実施件数	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2件(0)	C 各大学の独自の取り組みは行われているが、コロナ禍の影響により、多くが計画の検討に留まっており、数値目標は達成していない。
				13件(2)	13件(2)	13件(3)	13件(4)	13件(6)	13件(2)		

ビジョンプロジェクト2（地域活性） 担当：【国士館】、【駒澤】

2-1. 近隣同士の付き合いや地域での繋がりが希薄になっているため、地域振興や交流イベントの機会が求められている	■ 地域課題の解決や地域振興に向けた支援体制を構築し、「安心安全に暮らし、学び、遊べる街世田谷」の実現	■ 地域振興・交流イベントの推進	■ イベントの開催・協力件数	2018	2019	2020	2021	2022	2023	112件(17)	A 各大学での独自の活動が活発に行われ、コロナ禍以前の水準に回復し、数値目標を達成している。
				85件(10)	90件(12)	95件(14)	100件(16)	105件(18)	105件(18)		
2-2. 防災教育や指導等が区内に滞在する人々に対して十分な準備が整えられていない	■ 同上	■ 防災教育の推進	■ 防災教育の参加者数	2018	2019	2020	2021	2022	2023	27,816名	S 各大学において、防災意識が高まり防災訓練等の取り組みが推進され、数値目標を大きく上回り達成している。
				14000名	17500名	17500名	17500名	17500名	17500名		

ビジョンプロジェクト3（産業） 担当：【成城】、【東京都市】

3-1. 世田谷区内の産業界に従事する若年層が多くないため、高齢化社会に向けての人材確保ができていない	■ 産学官の連携体制を構築し、区内における就労及び新たな商品開発や起業の促進をはかることにより、区内産業を活性化	■ 企業との連携推進	■ 区内産業界へのインターンシップ参加者数	2018	2019	2020	2021	2022	2023	37名	C 企業との連携活動は行っているが、コロナ禍の影響により各大学の活動に制約があり、数値目標は達成していない。なお、2023年度の数値目標
				150名	160名	170名	180名	190名	150名		

2022（令和4）年度 世田谷プラットフォーム評価報告書

										は、見直しが行われた。	
			■ 区内への就業者数							152名	B 部会を中心に活動を進めているが、数値目標は達成していない。
			2018	2019	2020	2021	2022	2023			
			140名	150名	160名	170名	180名	180名			
3-2. 区内産業を活性化するための教育プログラム（リカレント教育）が提供されていない	■ 同上	■ 企業との連携推進	■ 社会人向け教育プログラム数							40件 (5)	S 世田谷PF独自の社会人向け教育プログラム「ビジネスキャリアデザイン講座Ⅱ」を継続して開講し、2021年度を上回るプログラムを実施している。
			2018	2019	2020	2021	2022	2023			
			検討	試行	実施						
3-3. 区内産業界を活性化するための、区内産業界等との連携体制が十分でない	■ 同上	■ 企業との連携推進	■ 産業イベント開催・協力件数							8件	B 企業との連携活動はしているが、コロナ禍の影響により各大学の活動に制約があり、数値目標は達成していない。
			2018	2019	2020	2021	2022	2023			
			—	7件	10件	12件	14件	14件			
3-4. 世田谷区は、兼業・副業や職住近接の働き方改革モデル地域として、また、多様な地域的課題を解決するコミュニティ・ビジネスの叢生モデル地域として期待されているが、地域住民や地元学生などに起業に関心のない「創業無関心者」が依然として多いため、地域ぐるみで創業機運を醸成する必要がある	■ 同上	■ 地域の「創業無関心者」層に、起業に関心を持ってもらうための啓発普及活動を展開	■ 創業機運醸成のためのイベント等開催数							1件	B 2022年度もコロナ禍の影響により計画を検討するに留まり数値目標は達成していない。
			2018	2019	2020	2021	2022	2023			
			—	3件	3件	3件	3件	3件			

ビジョンプロジェクト4（国際化） 担当：【成城】、【東京都市】

4-1. 東京オリンピック・パラリンピックに向けてアメリカのホストタウンとして区内での国際化対応を推進する必要がある	■ 東京オリンピック・パラリンピックとその後に向けた区内での国際化対応による世田谷の魅力度の向上	■ 国際感覚の醸成	■ 国際化推進イベント参画・協力件数							8 (6)	B 2022年度もコロナ禍の影響により全ての計画を進めることができず、数値目標は達成していない。
			2018	2019	2020	2021	2022	2023			
			28件 (0)	44件 (4)	45件 (4)	46件 (4)	47件 (4)	47件 (4)			

ビジョンプロジェクト5（大学等の連携） 担当：【駒澤】、【東京都市】

2022（令和4）年度 世田谷プラットフォーム評価報告書

<p>5-1. 個別の大学の取組のみでなく、各大学のFD・SD活動を共有あるいは共同開催することで、効率的な教育改革あるいは大学改革を推進する必要がある</p>	<p>■ 教育力の向上並びにスタッフ能力の開発により、世田谷区内大学の価値を高める</p>	<p>■ PF形成校（大学・高専）の連携強化</p>	<p>■ 共同FD・SD開催件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>6件</td> <td>6件</td> </tr> </tbody> </table>	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2件	2件	2件	2件	6件	6件	<p>6件</p>	<p>A 部会を中心に着実に取り組み数値目標を達成している。</p>
2018	2019	2020	2021	2022	2023												
2件	2件	2件	2件	6件	6件												
<p>5-2. 自大学に無い科目の提供や環境の異なる大学で学ぶことにより、学生の学修意欲を高める必要がある</p>	<p>■ 世田谷PF内で単位互換を活用しやすい仕組みを構築するとともに単位互換科目数を増加する</p>		<p>■ 共同の単位互換科目数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検討</td> <td>248科目</td> <td>248科目</td> <td>248科目</td> <td>248科目</td> <td>290科目</td> </tr> </tbody> </table>	2018	2019	2020	2021	2022	2023	検討	248科目	248科目	248科目	248科目	290科目	<p>301科目</p>	<p>S 2020年度から大学院科目が追加され、数値目標を達成している。</p>
2018	2019	2020	2021	2022	2023												
検討	248科目	248科目	248科目	248科目	290科目												
<p>5-3. 各大学が保有する施設・設備の共同利用を推進することにより、世田谷PFの活性化並びに大学間の教育研究等の連携強化を図る必要がある</p>	<p>■ 各大学が保有する施設・設備の共同利用を推進する</p>		<p>■ 共同利用が可能な施設・設備登録数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8件</td> <td>608件</td> <td>608件</td> <td>608件</td> <td>608件</td> <td>720件</td> </tr> </tbody> </table>	2018	2019	2020	2021	2022	2023	8件	608件	608件	608件	608件	720件	<p>747件</p>	<p>S 2022年度に東京農業大学が追加登録され、数値目標を達成している。2022年度も新たに東京都市大学と昭和女子大学の追加登録があり、大きく上回る結果となった。</p>
2018	2019	2020	2021	2022	2023												
8件	608件	608件	608件	608件	720件												
<p>5-4. 世田谷区内にある13大学の内、現在参画しているのは6大学であり、区内外の参加校数を増やし、より世田谷PFを充実する必要がある</p>	<p>■ 区内外への参加を呼びかけ、参加校を増やし、世田谷PFの効果を高める</p>		<p>■ 参加校（大学・高専）数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8校</td> <td>9校</td> <td>10校</td> <td>11校</td> <td>13校</td> <td>7校</td> </tr> </tbody> </table>	2018	2019	2020	2021	2022	2023	8校	9校	10校	11校	13校	7校	<p>6校</p>	<p>C 2022年度も構成大学は6大学に留まり、数値目標は達成していない。引き続き、参加校を増やす取り組みが望まれる。</p>
2018	2019	2020	2021	2022	2023												
8校	9校	10校	11校	13校	7校												
<p>5-5. 世田谷PF形成大学等において、共同のニーズ調査や高校訪問、説明会、広報（Webサイトやパンフレット等）活動を行い、世田谷区で学ぶことの魅力を高めていく必要がある</p>	<p>■ 世田谷PF形成大学の知名度を高め、世田谷で学ぶ魅力を伝えるために、共同学生募集活動を推進する</p>		<p>■ 共同学生募集活動件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8件</td> <td>8件</td> <td>8件</td> <td>8件</td> <td>8件</td> <td>8件</td> </tr> </tbody> </table>	2018	2019	2020	2021	2022	2023	8件	8件	8件	8件	8件	8件	<p>6件</p>	<p>A 部会を中心に活動は行われたが、コロナ禍の影響もあり、数値目標は達成していない。</p>
2018	2019	2020	2021	2022	2023												
8件	8件	8件	8件	8件	8件												
<p>5-6. 世田谷PF形成大学等において、地域課題の解決等に向けた共同のボランティア体制が整備されていない</p>	<p>■ ボランティア体制の充実</p>		<p>■ 学生ボランティア派遣件数（世田谷区「ボランティア事業」との連携）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検討</td> <td>試行</td> <td colspan="4">実施</td> </tr> </tbody> </table>	2018	2019	2020	2021	2022	2023	検討	試行	実施				<p>116件</p>	<p>S 各大学の学生ボランティア派遣が把握でき、2021年度を大きく上回る結果となった。2024年からの計画では適正な数値目標を設定する予定である。</p>
2018	2019	2020	2021	2022	2023												
検討	試行	実施															